

小頭岳

H・22・2・12(金)
新合地区振興会
振興会便り
文責:佐々木 元
NO. 9

先送り認める！ = 新合小統廃合問題 =

1月25日、統廃合の最終説明会(成案)が新合公民館でありました。およそ40名の参加者のなかから次々と質問がなされ、統廃合問題への関心の高さが伺われました。そのなかで、私たちが要望していた統廃合の先送りが認められ、平成27年度までは統廃合はされない見込みとの説明がありました。これを機会に私たちも一層小学校への有形・無形の支援をしていくことが重要です。

長寿の秘訣

こまめによく動いていた。
何でもよく食べ、食欲がある。
性格は性急なところがあったが、やさしい性格。

山口ヨシモさん(市ノ瀬)97歳に聞きました。

具体的な内容検討へ 第4回 まちづくり検討委員会

1月28日(木)第4回 まちづくり検討委員会を実施しました。アンケート結果や研修視察をふまえ、どんな取り組みをするか具体的な内容の検討を行いました。2時間にわたって話し合いましたが具体的な取り組みになると難しく次回(2月)に再度検討することになりました。自分たちで出来ることをじっくり時間をかけて話し合いながら進めていくことを確認して終わりました。

『道路工夫物語』(2)

当時、道路工夫の給料は5千円、手取りで3千円程度であった。そのころ木炭(スミ)を焼くと5~6万円になった。三輪自動車の貸し切りは1日1万円になったので道路工夫へのなりては少なかったとのこと。家で百姓をしていたほうがお金に成ったが、自分としてはそんなに悪くない仕事だと思っていたし、その仕事は嫌いでもなかった。道路工夫になることにした。父親は反対であったが、一度決めたらテコでも動かない性格を知っていたので許してくれた。仕事を始めたが、そのころ一回(昼)の食事に米5合食べていた。ハンゴウ一杯では不足し卸屋の車を止めてコッパンを5,6個食べていた。月5千円の給料では自分一人の米代にも不足していた。

(次回へつづく)

近畿河浦会に参加して 武内正俊(新合地区区長会長)

ふるさとを離れ近畿地方で頑張っている方に一度の会合『近畿河浦会(会長・池田 武司)』が1月10日、大阪で170名の参加で開催されました。これには、河浦から各地区の区長代表、市議、JA、市担当の8名が参加し、河浦の現状や町づくりへの寄付金のお礼、ふるさと納税のご協力などお願いしました。

近畿地方では、別に新合会が開かれており、この河浦会への新合出身者の参加者は少なく、15名程度の姿でした。近畿河浦会も第45回目を迎えており、会の進行の中でも古希(70歳)対象者の祝いを出席者のうち20名が紹介されるなど、年数の重みを伺えます。この日も、お互いの近況やふるさと河浦の話題に盛り上がり、最後には、全員で河浦音頭を総踊りし、約4時間の会合も瞬く間に過ぎていました。



<交通安全祈願 駅伝大会>

優勝は上津留Bチーム

第33回 交通安全祈願駅伝大会が1月31日に実施されました。5チーム(上津留区は2チーム)が出場し、8区(10.7km)で競われました。今回は各区间でトップが入れ替わるデッドヒートで応援にも特に力が入りました。入賞と各区间の区間賞は次のとおりです。

- 優勝・上津留B
- 2位・立原
- 3位・上津留B
- 1区・本多清大くん 2区・松岡晃生くん
- 3区・永野孝一郎さん 4区・大久保慎介さん
- 5区・大久保和奈さん 6区・大西学さん
- 7区・丸井雄太さん 8区・鶴本豊治さん

みなさんお疲れ様でした。



<第62回 新合地区成人講座>

祝 成人

第62回 新合地区成人講座

62回目を迎える新合地区の成人講座を1月2日に実施しました。今回の該当者は、昭和64年4月2日~平成2年4月1日生まれです。新合地区では7名の方が成人を迎えました。おめでとうございます。講座では主催者を代表して佐々木館長が「人生、迷うことも無駄ではない。」と祝辞を述べ来賓6名からもお祝いとお励ましの言葉をいただきました。その後、成人者の自己紹介があり続いて吉田多計至(新合小学校同窓会長)さんが「成人講座の歩みとその精神」という演題で講話を、恩師の切通直先生からもお祝いとお励ましの言葉がありました。最後に成人者を代表して本多将吾さんが「成人になった喜びと決意・恩師に会えた喜び等」の言葉を述べ式を終えました。その後、山茶花(さざん花)の記念植樹と記念写真を撮りクラス会に移りました。

なお、新成人と成られたのはこの人たちです。

山本 浩二さん(下津留)・本多 将吾さん(市平)・藤坂 祐也さん(立原)・本多 弘典さん(立原)・丸井 翔太さん(上津留)・井上 麻衣さん(立原)・大塚 朱莉さん(上津留)

がんばってま~す! 牛への愛着が土台

~今も続く一頭飼い~

昭和30年代まではほとんどの農家で牛を一頭か二頭飼っていたが、高度経済成長とともに多頭飼いが止まってしまうか分かれてしまった。今、新合で唯一昔ながらの一頭飼いをしている小川 潮さんの牛小屋を訪問した。親の代から続いているという昔ながらの牛小屋に裸電球が灯りそこで牛に餌をやる準備をしておられた。餌は自前の牧草にわらと農協の飼料が見られた。昔「はみきり」が有ったところには電動カッターが備えられてはいたが農協の飼料とカッターを除けばほとんど30年代の雰囲気漂う牛小屋だった。

牛は親牛1頭、子牛一頭がいて、5月の競りをめざして大切に育てられていた。なぜ、今まで飼育を続けているかと聞いてみると「牛がとても好きである。あごをなでてやると首をぐつと上に伸ばす仕草は何ともいえない。また、子牛を競りに出すまでの成長がとても楽しみである。」とのこと。これからも体力の続く限り飼いたいと目を細めて話された。

今の願いとしては牛を飼う仲間が一軒でも多く増えること、価格がもう少し上がり収入にもつながるようになることだという。奥さん(光代さん)の話によれば「牛小屋で話し声がするのでお客さんかな?と思って行ってみると、牛と話しをしているんです。何回もあつとです。」と笑いながら話され、「よっぽど牛が好きでっしょたい。」と。牛への愛情と夫婦息のあった一頭飼いがこころに残った。

保育園児の演技に大喝采

~総合学習の会「園児との交流」~

12月21日(月)に、総合学習の会と新合保育所の園児との交流会がありました。前日保護者に19種目にも及ぶ演技等を披露し、引き続きその中から9種目を発表してくれました。園児のあどけなさのなかにも、一生懸命さや愛らしさが伝わり、演技のたびに大きな拍手がわき30名の参加者に半日心ゆくまで楽しい交流の一時を過ごさせていただきました。保育園の先生方や保護者のがんばりが、充分伺える交流会でもありました。



<牛にえさをやる小川潮さん>

裏面に先日実施しましたアンケート結果を掲載しました。